

| 項目番号 | 項目名 | 委員名 | 委員意見 | 東京都回答 |
|------|-------------|-------|--|---|
| 全体 | - | 青山委員 | 「2 研究開発、技術支援及び法人の業務運営等 (1) 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進」については、基盤研究・共同研究において、件数を実績評価としているが、各テーマの研究成果(特許・論文・社会実装)の質を評価しその向上につとめる必要があるのではないか。また、成果を支援事例集として発行しているが、Webによる発信がより広報として効果的ではないか。 | ・質の評価については、第4期の評価視点として検討させていただきます。 ・紙媒体の電子化含め、デジタル化・オンライン化については一層推進するよう評価に記載いたします。 |
| | | 青山委員 | 「2 研究開発、技術支援及び法人の業務運営等 (2) 東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進」については、海外展開技術支援の拠点としてバンコク支所の活動を評価しているが、支所設置の費用対効果を評価し、オンラインによる遠隔支援・バーチャル支所の導入などを検討することにより、バンコク以外のアジア圏を中心としたオンライン海外支援拠点の構築も検討するべきではないか。 | 第4期中期目標期間中に都産技研とともに検討させていただきます。 |
| | | 藤竿委員 | (5)の部分、～YouTubeやTwitterなどSNSを含め～に変更。※第3期中期目標の総評の表現と合わせる | ご指摘のとおり修正させていただきました。 |
| 1 | 基盤研究 | 波多野委員 | 研究時間を確保し、実績を向上させたことを評価 | - |
| | | 藤竿委員 | 成果展開件数が前年度比9件減であり、16、17の両年度と比べて微増であることを考慮すると、A評価でもよいのではないかと。評価の「中期目標期間4年目～達成した」の一文は、達成率が4年目であることに意味はないため、不要と思われる。 | ・2018年度から実施している組織横断的な取組である「協創的研究開発」の実施件数が増えたことも評価した結果としてS評価といたしました。その旨評価に追記いたします。 ・「中期目標期間4年目～達成した」の部分はご指摘のとおり削除いたします。 |
| 2 | 共同研究 | 青山委員 | プラスチック代替材料の活用・開発について、今後一層の注力を期待する。 | ご指摘の件を評価に追記いたします。 |
| 3 | 外部資金導入研究・調査 | 青山委員 | 「外部から受賞される」→「外部から表彰される」ではないか。 | ご指摘のとおり修正させていただきました。 |
| | | 大橋委員 | 科研費応募件数は2018年度に比べて減少であるが、導入研究数は増加しているため、現状の評価で良いと思います。 | - |
| 4 | ロボット産業活性化事業 | 青山委員 | ポストコロナ社会におけるロボット活用へのニーズが高まることから、一層の注力を期待する。 | ご指摘の件を評価に追記いたします。 |
| | | 藤竿委員 | 製品化・事業化件数の伸び、新規の社会実装トライアル支援等での成果を考慮すると、S評価でよいのではないかと。 | 平成30年度の評価でも件数の伸びやSier人材育成事業の実施等を考慮しA評価としたところ同程度の成果と判断しております。 |
| 5 | 生活関連産業の支援 | 青山委員 | プラスチック製品に代わる容器等の製品開発については、SDGsに貢献する成果であることを明記するべきではないか。 | ご指摘のとおり修正させていただきました。 |
| 6 | 技術相談 | 青山委員 | ポストコロナ社会への対応から、オンライン・遠隔相談システムの充実に注力するべきではないか。 | デジタル化・オンライン化については一層推進するよう評価に記載いたします。 |
| | | 波多野委員 | オンライン化をさらに加速いただきたい。 | デジタル化・オンライン化については一層推進するよう評価に記載いたします。 |

| | | | | |
|----|-------------------|-------|--|---|
| 7 | 依頼試験 | 波多野委員 | 将来のニーズを把握し、設備や技術の先行投資が重要であるとする。コロナの状況の中での依頼試験の在り方を至急検討すべきである。 | 第4期中期目標期間中に都産技研とともに検討させていただきます。 |
| 8 | 機器利用サービスの提供 | 藤竿委員 | 評価の部分、利用者の利便性の向上と合わせて、「新型コロナウイルス感染防止に向けて機器消毒等の適切な対策を講じる」といった一文をいれてはどうか。すでに実行しているなら不要です。 | すでに実施しているとのこと。 |
| 9 | 3Dものづくりセクター | 青山委員 | 3D造形技術の分野は、技術進歩が急速であり、今後も、設備の更新や技術研究レベルの向上を特に注力してつとめる必要があるのではないかと。 | ご指摘の件を評価に追記いたします。 |
| 10 | 先端材料開発セクター | 藤竿委員 | 依頼試験及び機器利用実績、オーダーメイド開発支援等の実績が18年度実績に比べて遜色ないことを考慮するとS評価でもよいのではないかと。 | 前回は実績が大幅に伸びたことを評価させていただきましたが、今年度はそれと同程度で新たな伸びはないことからA評価と判断しております。 |
| 13 | 製品開発支援ラボ | 青山委員 | 今後も、大型事業の推進につとめ売上高の向上につとめることを期待する。 | 今後も企業が大きく成長できるよう支援していく旨記載いたします。 |
| | | 大橋委員 | 評価はAで良いと思うが、多摩テクノプラザの入居率が減少した理由は何か。 | 一時的に退去者が発生したことによります。多摩は5室しかないため、2社抜けただけで大幅に入居率が減少します。なお、今年度はすでに5室埋まっております。 |
| 14 | 実証試験セクター | 青山委員 | 利用実績は、高水準を維持していると考えられるが、別の見方では、減少傾向にあるように判断できる。 | 2018年度から2019年度にかけて実績が減少している理由は以下のとおりです。実証試験セクターの主要機器である「恒温恒湿槽」の大規模リニューアルを2年に渡り実施したため、実績が減少しております。 |
| 17 | 海外展開技術支援 | 青山委員 | 海外展開技術支援の拠点としてバンコク支所の活動を評価しているが、支所設置の費用対効果を評価し、オンラインによる遠隔支援・バーチャル支所の導入などを検討することにより、バンコク以外のアジア圏を中心としたオンライン海外支援拠点の構築も検討するべきではないかと。 | 第4期中期目標期間中に都産技研とともに検討させていただきます。 |
| | | 波多野委員 | コロナ禍であるからこそ、加速できる方法もあると考える | バンコク支所と産技研本部をつないでオンラインセミナーを実施しており、今後もそのような取組が必要と考えております。 |
| 22 | 組織体制及び運営、効率化、経費削減 | 大橋委員 | 3月のご説明で体制の強化は行っているとのだったが、包括監査で指摘ありということであれば、C評価で妥当と考える。 | — |